●事務局体制

代表理事　山岡修一*
副代表理事　青木一能*

東京事務所
伊藤多栄子、佐谷隆一、壽福隆人*、ゾリグト・アズザヤ、能智和美、野村政道、眞榮城好香、渡辺悠斗*、和田勝則*

プノンペン事務所
辰川はる奈、水野泰晴、北風亜矢子*、パン・ラス、マオ・カナリン、ノウ・チャンタ、スレン・キムヘン、ヒム・サヴィー、ソック・スレイポー*

◆JHP事務所　山岡修一氏が2024年5月30日付で代表理事就任。
◆JHP事務所　青木一能氏が2024年7月19日付で副代表理事就任。
◆プノンペン事務所　北風亜矢子職員が2024年4月1日付で入職。
◆プノンペン事務所　ソック・スレイポー職員が2024年5月3日付で入職。
◆東京事務所　野村政道氏が2024年8月31日付けで事務局長退任。
◆東京事務所　渡辺悠斗氏が2024年9月1日付で事務局長就任。
◆東京事務所　壽福隆人氏、和田勝則氏が2024年9月3日付で理事就任。

第7回「ジャパンSDGsアワード」外務大臣賞を受賞しました

JHP・学校をつくる会は、第7回「ジャパンSDGsアワード*」において、SDGs推進副本部長（外務大臣）賞を受賞いたしました。

（出典：首相官邸ホームページ）

＊【「ジャパンSDGsアワード」とは】
SDGs達成に資する優れた取組を行っている企業・団体等を、SDGs推進本部として表彰するもので、NGO・NPO、有識者、民間セクター、国際機関等の広範な関係者が集まるSDGs推進円卓会議構成員から成る選考委員会の意見を踏まえて決定されます。（外務省HPより引用）

昨年2023年12月19日、SDGs推進本部長である岸田内閣総理大臣、林官房長官、上川外務大臣ら（当時）の出席のもと、首相官邸にて受賞式が行われ、賞状とトロフィーが授与されました。

JHPの30年間に渡るカンボジアでの教育支援活動が、学校建設をはじめとする物資支援（ハード面）のみならず、国全体の「教育力向上」に繋がる、次世代の教育システム整備や人材育成（ソフト面）を含む包括的な支援活動であり、SDGs達成に向けた優れた功績であるとして評価を頂きました。

これまで活動を続けてこれているのは、温かいご支援・ご協力をいただいたすべての皆さまがいてくださったからだと思っております。改めまして、日頃からのご支援に感謝申し上げます。
この賞を励みに、JHPは今後も未来を担うすべての子どもたちが安心して学ぶことのできる教育環境づくりに活動に邁進してまいります。
引き続き、温かいご支援をよろしくお願い致します。

▲表彰式の動画はこちら（3:03からJHPの表彰です）

会費支払

当会の活動は皆様からの会費・寄付で成り立っています。
JHPニュースと活動記録集は会員の皆様にお送りしています。
・年会費：一般会員5千円、学生会員3千円、特別会員5万円
・上記それぞれ「正会員」・「賛助会員」が選択いただけます

◆「正会員」：定例総会や臨時総会の出席資格、議決権を持てます
会費は控除の対象にはなりません
◆「賛助会員」：定例総会や臨時総会に出席できますが、議決権を持てません
会費は寄付と同様に税法上所得控除の対象となります

口座名　：特定非営利活動法人　JHP・学校をつくる会
郵便口座：００１１０-４-３５６２６４
銀行口座：みずほ銀行赤坂支店　普通　１８４４６７６

※会費期限切れの方は更新手続きをお願いいたします。
期限前の支払いも可能です。
※郵便口座からの自動引落も可能です。ご希望の方はご連絡下さい。
※銀行振込ご利用の際は、連絡先確認のためご連絡をお願いします。
※転居された際は新住所をお知らせ下さい。

JHPのホームページから、クレジットカードで会費・寄付金のお支払いができます！

モノで寄付 BOOKOFF「キモチと」JHPのご支援が可能に

JHPは、従来から皆様にご利用頂いている「お宝エイド」「買取大吉モノ募金」に加え、BOOKOFF「キモチと*」の寄付団体となりました。

＊皆様のご自宅等で日頃使われていない品々をお送り頂くことで、その提供品に値が付き、当会の教育支援活動への支援となる寄付プロジェクトです。

- 初回登録後、WEBフォームにて簡単に集荷依頼が可能！
- 新たに【書籍】【CD】【衣類】等の受付が可能になりました
- マイページの専用ログイン画面から、支援者様がご自身で過去の寄付実績が確認でき、SNSでの発信も可能に！

「キモチと」の寄付プログラムへの温かいご支援をお待ちしております。

お申込みの詳細はこちら▶

「JHPニュース　Vol.84」（2024年12月号）
発行元：　認定NPO法人　JHP・学校をつくる会
発行人：　山岡修一
編集人：　眞榮城好香
〒108-0014　東京都港区芝5-14-2
LandyTamachiビル2階
TEL：　03-6435-0812

JHP NEWS

2024. 12
vol. 84

特集

1）小山内美江子さん偲ぶ会（P2-3にて掲載）
～感謝の想いが溢れる温かい会に～

2）カンボジアのすべての子どもたちに「音楽・美術」の楽しさを！（P4-5にて掲載）
～全国の小学校での普及を目指して～

ご縁を繋いでくれた小山内さんへの感謝が溢れる温かい会に

2024年5月2日に94歳で逝去されたJHP創始者であり、創立以来、代表理事を務めた小山内美江子さん。
訃報の知らせがあって以降、「ぜひ偲ぶ会を開催していただきたい」と多くのお声をいただき、7月27日（土）に新橋の会場にて「小山内美江子さんを偲ぶ会」を開催することができました。

小山内さんに最期の挨拶がしたいと全国各地から、約200名にものぼる方々がご参集くださりました。当日会場にお越しになれなかった方々からも、多数の弔電やお花をお送りいただきました。お心をお寄せいただきました皆さまへ心より感謝申し上げます。

偲ぶ会は「小山内さんへの感謝の気持ちを持ち寄り、手作りで温かみのある会にしたい」というコンセプトのもと、準備が進められました。

お花檀は、生前小山内さんにお世話になったフラワーデザイナーの片岡貴央様が「恩返しをしたい」という想いでお花畑をテーマに手掛けてくださりました。

式次第が始まる前の献花の時間には、会場全体に小山内さんとご縁の深いヴァイオリニスト天満敦子さんの「涙そうそう」のヴァイオリン演奏BGMが美しい音色で響き渡るなか、1人1人の心のこもったオレンジ色のカーネーションが献花台に並べられました。
カーネーションの色も、JHPのロゴや活動Tシャツに代表されるオレンジ色にちなんでご用意いただいたものでした。

会は司会の合図による黙祷から始まり、「思い出のスライドショー」上映の時間では、教育に生涯情熱を注いだ小山内さんの人生と海外での教育支援活動の様子をご紹介しながら、たくさんの人の未来を明るく照らしてくれた小山内さんの功績をあらためて実感する時間となりました。

献花の様子

黙祷

思い出のスライド

QRコード読取りで当日の様子をまとめた映像をご覧いただけます

新代表 山岡によるごあいさつ

天満さんによる追悼メッセージ

藤原紀香さんによる追悼メッセージ

カンボジアからの弔電代読

JHP設立初期から長年にわたり活動を共にしてきた新代表理事の山岡によるご挨拶の後、小山内さんの直々のオファーを受け、JHPスペシャルサポーターに就任され、長年に渡り活動を応援してくださっているヴァイオリニストの天満敦子さん、藤原紀香さんから追悼メッセージをいただきました。小山内さんの人柄をよく知るお2人ならではの、想いのこもったメッセージを聴き、参加者全員が小山内さんに想いを馳せる時間となりました。また、プノンペン事務所代表のスタッフによるカンボジア国内からの弔電の代読がありました。

利重様 ごあいさつ

ご子息の利重剛様からは、
小山内さんの最期のご様子をお話いただき、
「近年は度重なる手術や入院を通過しながらも、
お医者様から最期は老衰とのお話があり、母らしく、
しぶとく人生を生き抜いてくれました。
生前多くの人に愛され、このようにたくさんの方々に
お集まりいただいたこと、そして花々に囲まれた立派な祭壇を見て、おおげさねと
言いながらも、きっと喜んでいるのではないかと思います」 とのお言葉がありました。

会場では、小山内さんの秘蔵アルバム写真、直筆の脚本原稿や賞状をはじめ、午年生まれの小山内さんが生前コレクションしていた馬の置き物など、ゆかりの品の展示も行い、来場された方々は皆、興味深くご覧になっていました。
懇談の時間には、小山内さんが繋いでくれたご縁に感謝しながら、ともに懐かしい思い出を語りあうなど、お仲間との再会の場にもなりました。小山内さんへのメッセージコーナーでは、小山内さんへの感謝の言葉が綴られた桜の花が満開に咲きました。

ゆかりの品展示コーナー

東北や九州など遠方から来られる方のことを考え、多くの皆さまにご参加いただけるようにと、当日は、異例のチャリティーコンサート終了後のスケジュールでもありましたが、「小山内さんに少しでも恩返しをしたい」と20名以上の方々がボランティアにお申し出くださり、無事に開催することができました。ご協力いただきました皆さまに改めてお礼申し上げます。

ボランティアに参加してくださった皆さまと

偲ぶ会のボランティアでは、かつてカンボジアでボランティアをした活動隊のOBOGの方々も多く、数十年振りの喜びの再会をしている方々もいれば、お互い初めましての方もいましたが、「できることからはじめよう」の想いで率先して動いてくださるボランティアの皆さんとの間には「同じカンボジアという地でボランティアをした」という見えない絆がたしかに根付いていて、何とも言えない一体感を感じられました。
生涯、教育に情熱を注いだ小山内さんの素晴らしい功績を、そんなふとした場面でも感じられた貴重な機会でもありました。

ご来場者様へお渡ししたメモリアルフォトブック

JHPは小山内さんが残した熱き想いを受け継ぎ、今後も国を越えた助け合いの輪をさらに広げ活動に邁進してまいります。
今後とも皆さまの変わらぬ温かいご支援・ご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

JICA草の根技術協力事業
『カンボジアのすべての子どもたちに音楽と美術の楽しさを』
～全国の小学校での普及を目指して～

小学校にてアートカードを使用した鑑賞授業の体験

大学の図画工作のワークショップにて段ボールでカンボジアの牛を制作

大学にて教員養成課程の授業視察

カンボジア芸術教育支援のこれまで

カンボジアの初等科芸術教科は長年社会科の一部として取り扱われていましたが、2016年のカリキュラム改訂により独立した教科として認められ、小学校では週に1時間の芸術の授業が割り当てられることが決定されました。しかしながら、指導できる教員や教材が不足しているため、今日において大多数の小学校では芸術の授業が実施されていません。このような現状を受けて、JHPではカンボジア教育省及び独立行政法人国際協力機構(JICA)と三者協同で芸術教育の発展を目指し、主に教材開発並びに人材育成に取り組んできました。

2016年～2021年の5年間（第1フェーズ）で取り組んだ芸術教科（音楽/美術）のシラバスや教科書/指導書の開発・教員育成に引き続き、第2フェーズとして、「カンボジア国初等科芸術科教育普及体制構築事業」が、JICAにより再採択されました。この事業では2024年～2027年の3年間で、「カンボジアのすべての子ども達が質の高い芸術教育を学校で受けることができる」ことを目指して、2024年2月より、人材育成をメインにさらなる基盤構築に取り組んでいます。

今回は、2024年5月末に日本で実施した研修の様子を中心にご紹介します。

研修参加者の集合写真（日本到着時）

～日本の芸術教育をヒントに～
カンボジアの芸術教育の将来像を描く

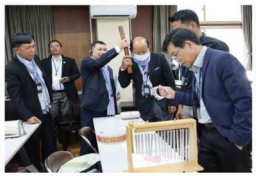
カンボジアでは、過去の内戦などの影響で、芸術教育の経験が乏しい教員や行政官が多く、教育体制や授業実施の具体像をなかなかイメージできないのが現状です。そこで、2024年5月21日～27日にかけて、行政官や教員養成校の先生を対象に、日本の教育現場の視察や専門家による講義・議論を通じて、カンボジアの芸術教育の具体的な将来像を描くための研修を実施しました。

研修に参加したのは、芸術教育を普及していくために結成された、カンボジア政府公認のワーキンググループ* (WG)メンバー計17名です。
＊WGは教育・青年・スポーツ省とプノンペン教員養成大学の教員合計16名から成り、アドバイザーとして文化芸術省の職員の方を1名配置しています

研修期間には、主に日本の専門家5名による講義5コマ、聖心女子大学・東京学芸大学にて教員養成課程の講義の見学（図画工作科、音楽科）、初等科図画工作に関わるワークショップ受講、筑波大学附属小学校の授業見学（図画工作科、音楽科）、芸術鑑賞（オーケストラ）などを行いました。

専門家による講義受講の様子

小学校訪問の際には給食を体験しました


講義見学の際には世界の様々な楽器を体験

授業視察の様子

「芸術のための教育」ではなく「芸術を通じた教育」を学ぶ

研修の具体的な内容として、日本の初等科芸術教科の教育制度や教員養成の仕組みについて、日本の専門家より講義を受けると共に、大学で教員を目指す学生を対象にした授業風景を視察しました。また、訪問した小学校では、図画工作科や音楽科の授業を見学し、児童を対象とした授業実践の方法を視察を通して学びました。

今回訪問させていただいた筑波大学付属小学校の図画工作科の授業では、世界の美術作品をアートカードで鑑賞しながら児童たちが活発に意見交換をする様子を視察しました。児童が作品を通じて、表現力やコミュニケーション力を高めている様子を観察し、WGメンバーからは「芸術を知識だけでなく、子どもたちの能力を引き出す方法として活用している点が新鮮だ」との声が上がりました。

音楽の授業では、全員で輪になり、身近なボディーパーカッションを使ってリズムを創る活動を見学しました。「楽器がなくても、身近なものを活用して豊かな授業が可能だとわかった」と、カンボジアの現状に即した教育のヒントを得た方も多くいました。

研修の最後には、メンバーが学びの成果や今後のカンボジアでの実践案を発表しました。「芸術科教育に関わる国家予算や教員の不足という課題がある中で、どのような授業が実施可能か」といった具体的な議論が交わされ、芸術を通じて子どもたちの成長を支える教育を広げていく意欲が感じられました。

研修で学んだ内容や感想発表の様子

授業後に音楽・図工の担当教員と意見交換する参加者

研修に参加したメンバーの声

『芸術教育は資材や楽器がないとできないと考えていたが、音楽では身体を使って音を出すボディーパーカッションや、猫の鳴き声を使っての音楽づくり、図画工作では日常生活で使わなくなった物を紙に貼って自分だけのストーリーを創るといった活動を授業で行っていて、とても創造的で興味深かった。』

『カンボジアでは先生の立場は高く、授業中も一方的に先生が生徒に対して話すことが多いが、小学校での授業では生徒と教師との対話がすごく自然で、まるで友達のように話していて、それが子どもたちから様々な意見が出やすい環境をつくっていると思った。』

『出来上がった作品の良し悪し（技能）により評価をすると思っていたが、児童の思考や授業中の態度等、総合的に評価をすることを理解することができた。』

『音楽や図画工作、手工芸を教えることは、児童を楽しませ、コミュニケーション能力を高め、知識や技術、態度を身につける大切な教科であることが分かった。』

教育・青年・スポーツ省　ウン・チネ総局長より

この訪日研修は私にとって新しい経験ばかりでした。
日本の教育では生徒達に「考えさせる」授業を実践するためにあらゆる工夫がされていました。
また授業についていけない生徒に対しても配慮し、取り残されないよう配慮がされていました。

一番印象的だったのは、教授の講義の中での「先生が教えたいことは教えない」という言葉でした。
カンボジアでは先生達が教えたいことを教える傾向があるからです。

カンボジアは予算は限られていますが、できることがあることを今回の訪日研修で実感しました。
今回学んだことを持ち帰って、カンボジアの芸術教育の普及に尽力していきたいと思います。
ご支援、ご協力下さいました日本の皆様に心より感謝申し上げます。

本研修を受けたカンボジア政府関係者や教員達が、カンボジアの芸術教育の礎を築けるよう、引き続き共に取り組んで参ります。今後の芸術教育支援事業の展開に関しまして、弊会のHPやFacebook 等でも随時公開いたしますので、今後とも変わらぬご声援の程、よろしくお願いいたします。

成人のための識字教育

Literacy class

第５期識字クラス修了～受講生の変化～

2023年8月にスタートした第5期目の識字クラスは、8か月間のコースを終え、2024年3月末に修了しました。
今期は、総受講生100名のうち89名が修了試験に合格し、識字者となりました。

受講生の変化

毎月実施される月次会議の中で、識字教員から一番多く聞こえた受講生の変化は、態度と日常で使用する言語の変化です。開始当初は「先生」とは呼ばず、「おい」、「お兄さん」、「お姉さん」、「兄弟」等といった言葉で呼ばれましたが、今は先生と呼び、普段も丁寧な言葉を使用するようになったそうです。授業の中で体系的に言葉を学び、日常で接する機会のない人々とコミュニケーションを取る中で培われた力だと考えられます。

村内のネットワークの活性化

スラーコッコー村の村長はこの識字クラスは、村人同士の関係構築の一助になったと話します。
村内には普段人々が集い話す場所がなく、特に非識字者の人々は外との繋がりが希薄になりやすく、家族や限られたネットワークで生きてきた人々が多い傾向があることがこれまでの調査で分かりました。この識字クラスを通し、普段話す機会のない人々と年齢を超え繋がることができ、そのことは、将来的に生活の質の改善につながり、ひいては村内のインフラの改善や高齢者や子どもの安全も保たれやすい環境をつくる一助になると考えられます。

閉講式でのバティエ郡政府代表のオンリー・アン氏の挨拶

ここサンダエックコミューンは内戦時代、戦地となっていたため、とても貧しい地域です。
そのため、就学時に学校に通えなかった人が多く、読み、書きができない人が、未だたくさんいます。
知識、特に読み、書きの能力は大切です。携帯電話が普及していますが、文字を読めないと使用することができません。 JHPの皆様には、引き続き、当コミューンを支援していただけたら幸いです。

2024年9月からは第６期目となる識字クラスが開講し、各村25名ずつの計100名が新たに学び始めました。
本事業は、日本労働組合総連合会様と公益財団法人 庭野平和財団様、個人の皆様からのご支援により実施しています。
引き続き、皆様の温かいご支援、ご声援を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

カンボジア学校建設

初！日本とカンボジアの小学生がオンライン交流

スクリーン上に日本の小学生が写り覗き込む児童

2024年2月末、カンボジアの地方の学校としては初めての試みで、日本の小学校とオンラインで繋ぎ、カンボジアの児童36名と日本の児童20名がお互いの学校生活や日常生活、文化を紹介しあう交流会を実施しました。

日本の小学校は学校建設支援を実施していただいている自治体にある小学校、カンボジアの小学校はその支援を受けているスワイサカウ小学校です。
交流会では、日本側から学校の施設や学習内容、食事などについての紹介後、カンボジアの児童は各グループに分かれ、
①制服と通学　②教科書　③一日の過ごし方
④伝統的な遊び　⑤各生徒のお気に入りの食べ物について紹介しました。

日本からの質問に答える児童

オンライン交流の合間に笑顔を見せる児童

現地では、オンラインを卓上のパソコンだけではなく携帯でも繋ぎ、JHPスタッフがカンボジアの児童の発表をライブ中継しました。両国の児童はスクリーン越しから見える同じ小学生とその発表に夢中の様子でした。日本の児童は見たことのない食べ物、特に原色の濃いフルーツ（ドラゴンフルーツなど）に大きな関心を持っていました。

その後、お互いの質疑応答があり全体で約1時間の交流でしたが、中身の詰まった貴重な時間を共有する交流会となりました。

カンボジアの小学校の教科書を説明中の児童

トゥイサムオーン校長

本日は、とても有意義な時間を過ごせました。
カンボジアに沢山の支援をしてくださっている日本に、子どもたちがさらに興味を深めてくれたことと思います。今後、両国のますますの友好発展を期待します。皆さんもお元気でお過ごしください。

コラム『習慣の違い』

カンボジアの学校行事では、来賓のスピーチの中で質問が含まれている場合、返答したい生徒が手を挙げてステージの前まで歩み寄り答えることがあります。今回も、日本の校長先生の挨拶に『みなさん、将来は何になりたいですか』と問いが入っていたところ、現地カンボジアでは、数名の児童が手を挙げ起立し返答する場面がありました。スピーチを中断させて返答するのは日本では滅多に見ない光景ですが、カンボジアでは頻繁に目にする光景です。

ネパール学校建設

ジャパ県の２校の学校で新たに２棟８教室が完成！

ご支援者様の温かいご支援により、JHPが活動するジャパ県のバガワティ学校とサラスウォティ学校の2校の学校で新たに2棟8教室が完成し、2024年3月14日-15日の2日間にかけて、校舎贈呈式が実施されました。
今回は建設前の学校の様子と、建設後の学校贈呈式の様子をお届けします！

壁の塗装が剥がれ落ちた教室で学ぶ児童

トタン屋根に多くの穴が

今回ご支援を受けた、バガワティベーシック学校は、ジャパの全地区の中で比較的資源が少なく貧しい状態にあるバラダシ地区の学校です。
495名の生徒が通うこの学校は、建設されてから40年が経っており、トタン屋根は錆びつき穴が空いていたり、壁の塗装は剥がれ落ち、ひびが入っている等、ほとんど修復不可能な状態でしたが、支援者様からの温かいご支援によって、新校舎に生まれ変わることができました。

老朽化した校舎

ジャパ県ブッダーサンティ地区のゴパルダダ村に位置するサラスウォティ学校には、最も遠距離だと約4km離れた村から通う生徒もおり、548名が在籍しています。生徒数は年々増加していて、今年度は172人の生徒が教室数の不足と教員数の不足で入学することができない状況でした。
教室の屋根は多くの穴が開いて錆びていたり、床が傾いているなど、校舎の老朽化も深刻でした。

今回ご支援により完成した新たな校舎の贈呈式に参加するため、学校へ向かうと、たくさんの生徒たちが整列し、花飾りや花びらを手に待ち構えていて、花吹雪や顔が埋もれてしまうほどの立派な花飾りを首にかけてくれたりと、盛大に迎えてくれました。

贈呈式には、ジャパ県の地方政府関係者や、教員や生徒、地域住民の方々が大勢集まり、JHP代表と支援者様からのメッセージを伝えたのちには、代表生徒による英語での感謝のスピーチやダンス・劇パフォーマンスが披露されました。最後には先生やスタッフも一緒に即興のダンスを楽しむなど、学校に関わる皆が新しい校舎が完成したことへの感謝と喜びを表現していました。

現地スタッフによると、子どもたちは贈呈式が行われる前から、完成目前の新校舎の前に集まり教室を覗いていたようで、新しい教室で勉強できることを今か今かと楽しみに待っていたそうです。
支援者様の想いが込められ蒔かれた種が大きく花を咲かせ、新しい校舎で学ぶ子ども達がネパールの明るい未来を担ってくれることを願ってやみません。

サラスウォティ学校 新校舎

バガワティベーシック学校 新校舎

教室には真新しい机椅子と扇風機が

新校舎テープカットの様子

CAP（CCH Arts Project）は、ローラ・ワールド・スカラシップ基金の支援によって、2015年からCCH学校とJHPが協力して行っているアート表現活動です。子どもたちが想像性や感性、想像力などの資質能力を発揮できる場を提供することを目的に活動しています。子どもたちにとって、その集大成とも言える年に１度のビックイベント「CAPアートフェスティバル」の様子をご紹介します！

活動写真や作品の展示

保護者やご近所さんも楽しんでいました

手作り王冠のファッションショー

個性溢れる王冠で自分らしさを表現

舞台劇の披露「三匹の子ブタ」

上級生による迫真の演技

来場者も楽しめるフォトブース

参加者の子どもたちも楽しんでいました

ダンス披露

「MONKEY DANCE」「ベイビーシャーク」など

鍵盤ハーモニカ演奏披露

「メリーさんのひつじ」「カエルの歌」など

CCH学校の運営につきまして

カンボジア政府の新たな方針により、CCHは2023年9月で児童養護施設としての機能を閉じ、『CCH学校』として運営を行っております。これにより、JHPはカンボジア社会発展に貢献する人材育成支援として、CCHを卒業した青年を対象に、大学進学のための奨学金支援を行います。
CCH学校は 2024年11月より、Chan Yun International School と協力関係を築き、カリキュラムのアップデートと学校環境の改善に取り組みながら、より質の高い教育の提供を目指しています。CCH学校の校長には、CCH卒業生であり、Chan Yun International School 創立者で校長を務める Mr. Chan が新たに就任*され、新たに幼稚園を開園、現在6名の幼稚園生が通っています。

＊設立当初よりCCH所長を務めたメチ・ソカ氏は理事として学校運営に携わっております

CCHの運営体制は、児童養護施設から学校運営へと変わりましたが、貧困IDを保有している家庭の生徒の授業料を無償にするなど、現在もソカ氏を中心に継続的なサポートを行っています。今後とも皆さまの変わらぬご支援の程、よろしくお願いいたします。

小山内美江子　追悼記念

天満敦子
チャリティーコンサート

今年19回目を迎えたJHPチャリティーコンサートは、「天満敦子チャリティーコンサート」として7/27（土）に開催しました。

天満さんは2021年初冬、突然の頚椎損傷による体調不良のため、手術と半年近いご入院をされましたが、術後の厳しいリハビリを越えられながら、今回「音楽の楽しさを分かち合いたい！」という熱い想いで、約3年振りにJHPコンサートへステージ復帰されました。「天満さんのヴァイオリンの音色を聴きたい」と多数のお申込をいただき、チケットは完売、当日は500名の方にご来場いただきました。ご来場下さった皆さま、ありがとうございました。

また、今回は今年5月に逝去されたJHP創始者小山内美江子さんの追悼記念として開催されました。当日は、小山内さんを「おっかさん」と呼ぶ程、ご縁の深い天満さんからの小山内さんとのカンボジアへ行った際の思い出話を交えた追悼メッセージと、献曲として「見上げてごらん夜の星を」の心に沁みるヴァイオリン演奏が。天満さんも観客の皆さんも小山内さんのことを思いながら、心温まる時間を過ごすことができました。

ご来場くださった皆様からは、「心のこもった演奏にとても感動した」「術後の厳しいリハビリを越え奏でられた天満さんの繊細かつ力強い演奏に勇気をもらい、涙が出た」などのご感想が多数、寄せられました。

今年もチャリティーにご賛同くださった皆様から多くのご寄付をいただきました。心よりお礼申し上げます。お寄せいただいたご支援はカンボジアの音楽教育支援を中心とする活動に充てさせていただきます。

なお、次回、第20回のチャリティーコンサートは、
2025年7月26日（土）浜離宮朝日ホール での開催を予定しています。
多くの皆様のご来場をお待ちしております。

ご報告

収入合計	2,873,252円
支出合計	1,295,327円
チャリティ総額	1,577,925円
来場者数	500名

JHPチャリティーカレンダー『Smile Moment』2025 好評販売中！

毎年好評いただいているJHPチャリティーカレンダー『Smile Moment』の2025年版が完成しました。
今年もカンボジア・ネパールの子どもたちの溢れる笑顔がつまったカレンダーとなりました。

写真はすべて、JHPが支援している地域の子どもたちです。
教育環境が決して十分とは言えないなかでも、笑顔を絶やさず将来の夢を心に大きく描く子どもたちから、たくさんの気づきをもらえます。

本カレンダーの収益は、そんなカンボジアとネパールの子どもたちのためのJHP教育支援活動に役立てられます。身近な国際支援として、ぜひご参加ください。

ご自宅用・仕事用はもちろん、
贈り物にもピッタリです！

カレンダーで国際貢献

壁掛け：500円
卓上：800円

送料
壁掛け 1-10冊：180円 / 11-20冊:360円
卓上 1-5冊：180円 / 6-10冊：360円

ご購入情報は
こちらから！

皆さまの日常に、カンボジア・ネパールの子どもたちからの明るい笑顔のパワーが届きますように！

カンボジア 体験ボランティア 2024

毎年夏開催の、地球視野を持ったグローバル人材育成のための海外ボランティアプログラム『カンボジア体験ボランティア』。
今年は、2024年8月18日～26日の約8日間にかけ、カンボジア王国プノンペン市・プレイベン州にて、ボランティア活動を行いました。

『今後の将来像を描ける機会にしたい』『日本以外の世界を見て視野を広げたい』など、熱い志を持った高校生3名・大学生16名・社会人5名の総勢24名が全国から集まりました。

今年は、JHPを通じて建設支援された小学校の校庭へのブランコ建設や、子ども達との交流などに加え、学生主体で企画した衛生教育の劇の披露やペットボトルや身の回りにある廃材を活用したアート創作活動等、参加者が主体となって企画・実施することを大切に活動を行いました。

＼皆で力を合わせ小学校の校庭へスチールブランコを建てました／

活動の集大成として、11月下旬に開催した活動報告会では、約8日間のカンボジア体験ボランティアを通じて『私のあたり前が世界ではあたり前ではなく、視野が広がった』『今後の進路を考える上で、自分に何ができるのかを真剣に考える機会になった』など、沢山の貴重な人生の学びを得ることができたとの声が多数ありました。何よりも、自分の言葉で感じたことを生き生きと話すメンバーたちの姿が印象的でした。

今後もこの出会いと繋がりを大切にしながら、今回の体験ボランティアでの実体験を多くの人に伝え、ぜひそれぞれのフィールドで活かしてもらいたいと思います。

活動報告会での集合写真